



Title	編集後記
Author(s)	木村, 友美
Citation	未来共創. 2020, 7, p. 345-345
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/76170
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

ジャーナル『未来共創』は、今号から新たな名称で、これまで6号にわたって刊行されてきたジャーナル『未来共生』を引き継ぎました。大阪大学大学院人間科学研究科附属の未来共創センターに編集事務局を構えて、初めての刊行となります。私自身、原稿募集を始めた当初は、原稿が集まるのだろうかという不安な気持ちもありましたが、結果として、本号では査読論文3本、特集論文8本、報告3本、書評3本、エッセイ4本が掲載されることとなりました。執筆していただいた皆さま、そして査読していただいた先生方に、心より御礼申し上げます。

ジャーナルの名称に掲げた「共創」については、特集1「共創・共創知とはなにか」で、栗本英世先生と2名の大学院生により、大阪大学の「共創」の取り組みの歴史から、共創の思想や事例、そして人間科学が目指すべき「共創」が考察されています。また、特集2では、今年度からセンターで立ち上げた研究会をもとに「インクルージョンと共生」をテーマとしましたが、防災、まちづくり、障害者、高齢者、外国人教育などについて、多分野の教員と学生からの原稿が揃いました。また、「インクルージョン」という共通のテーマで、それぞれの分野での課題における共通点や相違点について、筆者らで語り合った「座談会」も掲載されています。長い期間をかけて特集に関わってくださった皆さま、本当にありがとうございました。

今号からオンラインでの刊行となったことも新たな特徴です。2020年は、新型コロナウイルスの感染拡大によって、社会全体が大きく変化する兆しのなかでスタートしました。オンラインでつながるということの利点と限界を、多くの人が考える機会となっています。共創とはなにか、共創知とはなにかという議論の深化には、多様な分野の参画が不可欠だと思います。本ジャーナルが、多くのみなさまに読んでいただき、議論のきっかけとなることを願っています。

最後に、編集にあたり豊富なご経験で支えてくださった脇阪紀行先生と、丁寧な校正をしていただいたレカボラ編集舎の小野寺佑紀さんに御礼申し上げます。

大阪大学大学院人間科学研究科附属未来共創センター・講師
木村友美

発行 2020年3月31日
大阪大学人間科学研究科附属未来共創センター
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-2

編集協力
レカボラ編集舎 小野寺佑紀
デザイン 有限会社ブックボケット